B7FH-6261-01 Z0

ServerView Windows エージェント ユーザーズガイド

本書の構成

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
（→ P.xx）	参照先のページを示しています。クリックすると該当ページへ移動します。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■「CD/DVD ドライブ」の表記について

本書では、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブなどを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。お使いの環境に合わせて、ドライブ名を読み替えてください。

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
         ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD/DVD ドライブのドライブ文字は、お使いの環境によって異なるため、本書では［CD/DVD ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせてドライブ文字を入力してください。
  ［CD/DVD ドライブ］:¥setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ ServerView 名称について

ServerView とはサーバに付属する管理用ソフトの総称です。

「ServerView Operations Manager」は「ServerView エージェント」で監視しているサーバの情報を表示するソフトウェアです。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Standard Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Premium	Windows Server 2008 または Windows Server 2008 (64-bit)	Windows
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft® Windows® Small Business Server 2003	Windows Server 2003	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2 Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP	
Red Hat Enterprise Linux 5（for x86）	Red Hat Linux RHEL5(x86)	Linux
Red Hat Enterprise Linux 5（for Intel64）	RHEL5(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for x86）	RHEL-AS4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for x86）	RHEL-ES4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for EM64T）	RHEL-AS4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for EM64T）	RHEL-ES4(EM64T)	
Intel LANDesk® Server Manager	LDSM	
リモートサービスボード （PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 ）	リモートサービスボード	

■ Server Core インストールオプションについて

本書では Windows Server 2008 オペレーティングシステムを Server Core インストールオプションにてインストールした環境を Server Core と表記しています。

参考情報

■ ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerView Windows エージェントをお使いになる前に、必ずお読みください。
「ソフトウェア説明書」は、"Agent_Hints.txt" というファイル名で、PRIMERGY スタートアップディスクに格納されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ 機種による制限事項、サポート OS について

お使いの機種によっては一部機能が制限される場合があります。機種ごとの制限事項については、「ソフトウェア説明書」(Agent_Hints.txt) 内に記載されています。ServerView Windows エージェントをお使いになる前に、ご確認ください。
本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください。

■ ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、インターネット情報ページ
(http://primeserver.fujitsu.com/primergy/) に記載されています。

商標および著作権について

目　次

1

第 1 章

ServerView Windows エージェントの概要

この章では、ServerView Windows エージェントの概要、システム要件について説明しています。

1.1 ServerView Windows エージェントとは

ServerView Windows エージェントは、PRIMERGY 監視対象サーバにインストールするハードウェア監視、および異常発生の検出／通知（イベントログおよび SNMP トラップ送信）などを行うソフトウェアです。
また、ServerView Operations Manager（以降、SVOM と略します）に対して、監視対象サーバの監視情報を SNMP プロトコルを使用して提供します。

本書では、ServerView Windows エージェントのインストール、ServerView Windows エージェントの使用方法について説明します。
ServerView Windows エージェントを含む ServerView の機能については、『ServerView Operations Manager ユーザーズガイド』をご覧ください。

POINT

- ServerView Windows エージェントには、異常発生時などにメッセージをポップアップする機能はありません。監視対象サーバで、メッセージポップアップを行う場合は、SVOM をインストールしてください。イベントマネージャの機能により、メッセージポップアップが行えます。
- ServerView Windows エージェントは、OS イベントログにログを格納します。
  ServerView Windows エージェントが格納するログは、次のとおりです。
  ログの種類：アプリケーション
  ソース名：ServerView Agents
  イベント ID：「SNMP トラップの Specific 番号」＋ 10000
  例）詳細メッセージ「System status has changed at server xxx」のログの場合
  上記ログの「SNMP トラップの Specific 番号」は、ServerView トラップリストの項目「SERVERVIEW-STATUS-MIB（status.mib）」中に「1100」番であることが記載されています。
  このログの場合、イベント ID は「11100」と表示されます。
- ServerView Windows エージェントが OS イベントログに格納するログの詳細（意味、対処など）については、『ServerView Operations Manager トラップリスト』をご覧になり、該当の「SNMP トラップの Specific 番号」をご覧ください。
- ServerView トラップリストには、ServerView Windows エージェント以外のアプリケーションが送信するトラップ（ログ）も記載されています。ServerView トラップリスト内の ServerView Windows エージェントに関するログ（ソース名：ServerView Agents）を確認する場合は、次の項目の中をご覧ください。
  ・SNI-TRAP-MIB（trap.mib）
  ・SNI-SERVER-CONTROL-MIB（sc.mib）
  ・SNI-HD-MIB（hd.mib）
  ・SERVERVIEW-STATUS-MIB（status.mib）
  ・FSC-SERVERCONTROL2-MIB（sc2.mib）
  ・FSC-THRESHOLD-REPORT-MIB（Threshold.mib）

1.2 システム要件

ServerView Windows エージェントをサーバにインストールするときのシステム要件は、次のとおりです。

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	256MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 100MB 以上
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨：1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
ソフトウェア	OS	・Windows Server 2008 ・Windows Server 2003 R2 ・Windows Server 2003
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP（サービスおよびトラップ）が動作していること
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

重要

- ServerView Windows エージェントは PRIMERGY シリーズ専用です。PRIMERGY シリーズ以外のサーバにはインストールしないでください。

第 2 章

インストール

2

この章では、ServerView Windows エージェントのインストール方法を説明しています。

2.1 インストールの流れ

ServerView Windows エージェントのインストールは、次の流れで行います。

POINT

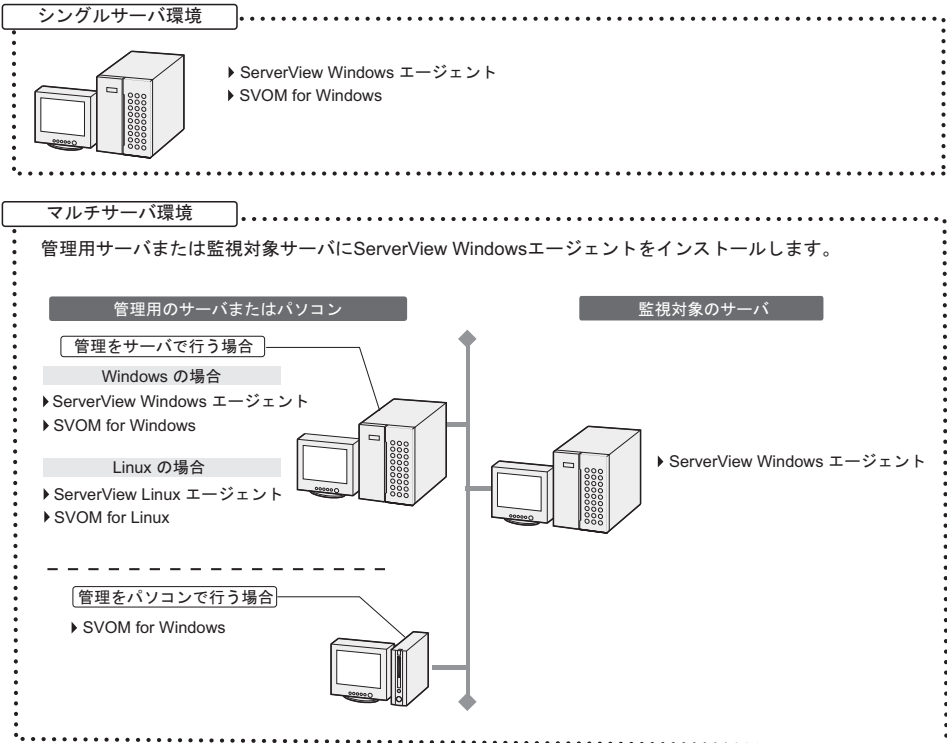
- ServerView Windows エージェントによる監視情報を表示するためには、監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンに SVOM をインストールする必要があります。SVOM のインストールについては、『ServerView Operations Manager ユーザーズガイド』をご覧ください。

インストール前の確認

インストール前に、次の確認を行います。

・TCP/IPとSNMPサービスのインストール
・バインド順序の変更
・ServicePackの適用

インストール

監視対象サーバに、ServerView Windows エージェントをインストールします。

インストール後の設定

インストール後、OSのコンポーネントをインストールしたり、各種設定を行ったりします。

・管理ユーザの設定
・SNMP設定の変更

重要

- REMCS V3.1L29x（x は任意の英字）以降のバージョンでは、REMCS の動作要件として SVOM は不要です。監視対象サーバに SVOM をインストールする必要はありません。なお、REMCS V3.1L28x（x は任意の英字）以前のバージョンでは、REMCS の動作要件として SVOM が必要です。監視対象サーバで REMCS V3.1L28x 以前のバージョンを使用する場合は、監視対象サーバに SVOM をインストールしてください。
- ServerView Windows エージェントをインストールした後に ServerView RAID をインストールした場合、エージェントの再起動が必要となります。エージェントの再起動方法については、「3.1.3 ServerView Windows エージェントの再起動方法」（→ P.35）をご覧ください。

POINT

- 管理用サーバ／パソコンに SVOM をインストールして監視対象サーバを監視する場合は、監視対象サーバへの SVOM のインストールは必須ではありません。
- 監視対象サーバ（ServerView Windows エージェント）は、SVOM for Windows ／ SVOM for Linux のどちらからでも監視できます。なお、SVOM for Windows ／ SVOM for Linux については、『ServerView Operations Manager ユーザーズガイド』をご覧ください。

■ SVOM のバージョン選択

管理用サーバ／パソコン、または監視対象サーバにインストールする SVOM のバージョンは次を参考に選択してください。
なお、SVOM は常に最新のバージョンを使用することを推奨します。

● シングルサーバ環境の場合

SVOM をインストールするサーバに対応したバージョンをインストールしてください。

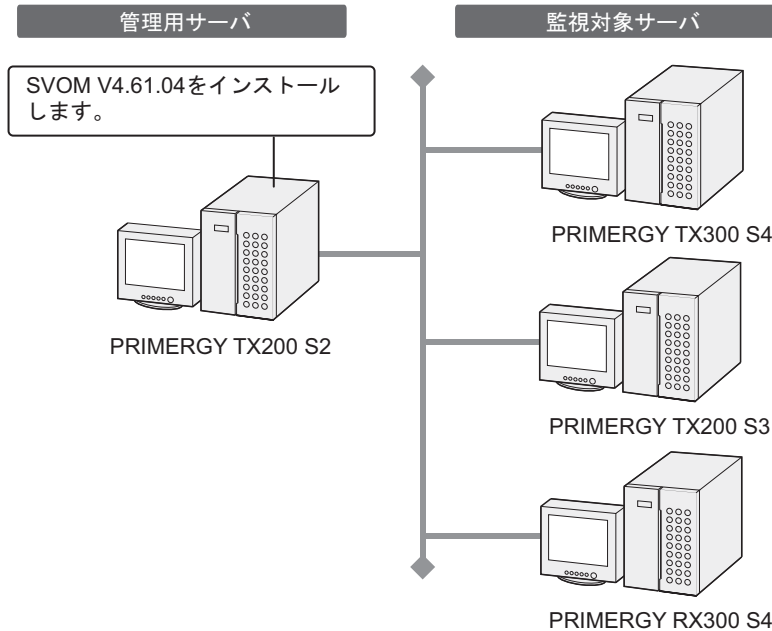
● マルチサーバ環境の場合

1. 管理用サーバ、監視対象サーバの中で最新機種に対応した SVOM のバージョンを確認します。
2. 管理用サーバ、監視対象サーバの中で最新版 ServerView エージェントをインストールしている機種に対応した SVOM のバージョンを確認します。
3. 手順 1、手順 2 で選択したバージョンを比較し、新しいバージョンの SVOM をインストールします。

POINT

- 最新版 SVOM は、「■ ServerView に関する最新情報について」（→ P.5）に記載しているホームページからダウンロードできます。
- PRIMERGY に添付している ServerView のバージョンは、最新バージョンに比べて古い場合があります。

■ バージョン選択例

次の構成の中に、サーバは 4 台（TX300 S4、TX200 S3、TX200 S2、RX300 S4）あります。

また、各機種での SVOM、ServerView エージェントのバージョンは、次のとおりです。

構成内での機能	機種名	バージョン		補足
		SVOM	ServerView エージェント	
管理用サーバ	TX200 S2	V3.60.23	V3.20.03	
監視対象サーバ	TX300 S4	V4.61.04	V4.52.10	最新の機種
	TX200 S3	V4.20.15	V4.30.07	
	RX300 S4	V4.52.08	V4.53.01	最新のエージェント

1 最も新しいサーバはTX300 S4です。TX300 S4に対応したSVOMのバージョンは、V4.61.04 です。

2 最も新しい ServerView エージェントのバージョンは RX300 S4 です。RX300 S4 の SVOM のバージョンは、V4.52.08 です。

3 上記 1、2 のバージョンを比較すると、V4.61.04 が新しいため、管理用サーバには V4.61.04 をインストールします。

2.2 インストール前の確認

ServerView Windows エージェントをインストールする前に、次の事項を確認してください。

2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール

SVOM ／ ServerView エージェントが正しく動作するためには、監視対象のサーバに、TCP/IP プロトコルと SNMP サービスがインストールされている必要があります。
以降の説明では、SNMP サービスのコミュニティ名の例を「public」として記述しています。必要に応じてコミュニティ名を変更してください。コミュニティ名の変更については、「2.4.2 SNMP 設定の変更」（→ P.28）をご覧ください。

重 要

- コミュニティ名は、通常「public」が設定されています。コミュニティ名を「public」のまま使用すると、第三者によって情報が取り出されたり、電源制御などの装置を操作されたりする危険性があります。任意のコミュニティ名に変更することを推奨します。なお、コミュニティ名／ SNMP パケット受け付けホストが正しく設定されていないと、認証エラー（"Unauthorized message received."）になります。コミュニティ名／ SNMP パケット受け付けホストを十分確認したうえで、設定してください。

■ Windows Server 2008 の場合

1 コントロールパネルを起動し、「プログラム」をクリックします。

2 「プログラムと機能」の「Windows の機能を有効化または無効化」をクリックします。

3 表示された「サーバマネージャ」の左側のツリーから「機能」をクリックします。

4 「機能の概要」域の右側部分の「機能の追加」をクリックします。

5 次のいずれかの操作を行います。

「SNMP サービス」のチェック有無によって操作が異なります。

▶「SNMP サービス」がすでにチェックされていた場合

この場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。手順 6 に進んでください。

▶「SNMP サービス」がチェックされていなかった場合

次の操作で SNMP サービスをインストールします。

1.「SNMP サービス」および配下の「SNMP サービス」をチェックします。

2.「次へ」をクリックし、メッセージに従って操作します。

6 コントロールパネルを起動し、「システムとメンテナンス」→「管理ツール」の順にクリックします。

7 「コンピュータの管理」をクリックします。

8 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。

9 右側のウィンドウで「SNMP Service」をクリックします。

10 「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。

11 「全般」タブの、「スタートアップの種類」項目が「自動」に設定されていることを確認します。
「自動」になっていなかった場合は、「自動」に設定してください。

12 「トラップ」タブをクリックします。

13 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、「一覧に追加」をクリックします。

14 「トラップ送信先」の「追加」をクリックします。

15 SVOM for Windows をインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、「追加」をクリックします。
シングルサーバ環境で SVOM for Windows をインストールする場合、自分自身のホスト名、IP アドレスを入力します。複数の SVOM for Windows を運用する場合には、それぞれのホスト名、IP アドレスを入力します。

16 「認証トラップを送信する」にチェックを付けます。

17 「セキュリティ」タブをクリックします。

18 「public」をクリックし、「編集」をクリックします。

19 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択し、「OK」をクリックします（「読みとり、書き込み」を推奨)。
▶「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合
次の操作でコミュニティを追加します。
1.「追加」をクリックします。
2.「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します（「読みとり、書き込み」を推奨)。

3.「コミュニティ」に「public」と入力し、「追加」をクリックします。

20 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

▶すべてのホストのパケットを受け付ける場合

1.「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

▶指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

1.「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2.「追加」をクリックします。
3. ServerView をインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、「追加」をクリックします。
   ServerView Windows エージェントをインストールするサーバでは、必ずループバックアドレス（127.0.0.1）を含めてください。

21 「OK」をクリックします。

重要

- ファイアウォールが有効に設定されている場合、SVOM から監視を行うためには、ファイアウォール設定で「ファイルとプリンタの共有」の例外処理が有効に設定されている必要があります。

● Server Core インストール環境の場合

Server Core のローカルコンソール環境では、Microsoft 管理コンソール（MMC）の GUI ベースの管理ツールは動作できません。次に示す操作は、Windows Server 2008、Windows Server 2003、Windows XP の別端末から管理ツールを起動し、リモート接続した場合の操作手順です。

重要

- SNMP サービスの設定を行うため、Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の装置とは別の Windows 端末が必要になります。あらかじめ用意してください。

1 Server Core インストール環境の端末で、次のコマンドを実行し、SNMP サービスがインストールされ、開始されていることを確認します。

```
> sc query SNMP
```

▶SNMP サービスがインストールされていない場合

次のコマンドを実行し、SNMP サービスをインストールします。

```
> start /w ocsetup SNMP-SC
```

2 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザでログインします。

3 コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

Windows Server 2008 では、ファイアウォールがデフォルト設定で有効になっています。リモート管理に必要な通信を許可する必要があります。

```
> netsh firewall set service remoteadmin enable
> netsh advfirewall set currentprofile settings remotemanagement enable
```

以降の操作は、Server Core に接続するために別の Windows 端末で行います。

4 別の Windows 端末上でコマンドプロンプトを起動して次のコマンドを実行します。

操作の途中で Administrator のパスワードの入力が必要になります。
次の「xxx.xxx.xxx.xxx」には、管理対象サーバ（Server Core）の IP アドレスを入力します。

```
net use ¥¥xxx.xxx.xxx.xxx¥c$ /u:Administrator
```

5 次のコマンドを実行します。

```
>services.msc
```

サービス画面が起動します。

6 「操作」メニュー →「別のコンピュータへ接続」の順にクリックします。

「コンピュータの選択」画面が表示されます。

7 「別のコンピュータ」に上記の Server Core サーバの IP アドレス、またはマシン名を入力して、「OK」をクリックします。

Server Core サーバのサービス一覧が表示されます。

以降は、サービスに「SNMP Service」があることを確認して、「■ Windows Server 2008 の場合」（→ P.14）の 手順 9 以降を行ってください。

重要

- ローカルコンソール環境での SNMP の設定および変更は未サポートです。

■ Windows Server 2003 の場合

1 コントロールパネルを起動します。

2 「ネットワーク接続」をダブルクリックします。

3 「詳細設定」メニュー →「オプションネットワークコンポーネント」の順にクリックします。

4 次のいずれかの操作を行います。

「オプションネットワークコンポーネントウィザード」の「管理とモニタツール」のチェック有無によって操作が異なります。

▶「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合

1. 「管理とモニタツール」をクリックし、「詳細」をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がチェックされているかを確認します。
   チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 5 に進んでください。

▶「管理とモニタツール」がチェックされていなかった場合

次の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」をチェックします。
2. 「詳細」をクリックし、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がチェックされていることを確認し、「OK」をクリックします。
3. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「次へ」をクリックします。
   メッセージに従って操作します。

5 コントロールパネルを起動し、「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。

6 「コンピュータの管理」をクリックします。

7 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。

8 右側のウィンドウで「SNMP Service」をクリックします。

9 「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。

10 「全般」タブの、「スタートアップの種類」項目が「自動」に設定されていることを確認します。

「自動」になっていなかった場合は、「自動」に設定してください。

11 「トラップ」タブをクリックします。

12 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、「一覧に追加」をクリックします。

13 「トラップ送信先」の「追加」をクリックします。

14 SVOM for Windows をインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、「追加」をクリックします。

シングルサーバ環境で SVOM for Windows をインストールする場合、自分自身のホスト名、IP アドレスを入力します。複数の SVOM for Windows を運用する場合には、それぞれのホスト名、IP アドレスを入力します。

15 「認証トラップを送信する」にチェックを付けます。

16 「セキュリティ」タブをクリックします。

17 「public」をクリックし、「編集」をクリックします。

18 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択し、「OK」をクリックします（「読みとり、書き込み」を推奨）。

▶「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合

次の操作でコミュニティを追加します。

1. 「追加」をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します（「読みとり、書き込み」を推奨）。
3. 「コミュニティ」に「public」と入力し、「追加」をクリックします。

19 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

▶すべてのホストのパケットを受け付ける場合

1. 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

▶指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

1. 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2. 「追加」をクリックします。
3. ServerView をインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、「追加」をクリックします。
   ServerView Windows エージェントをインストールするサーバでは、必ずループバックアドレス（127.0.0.1）を含めてください。

20 「OK」をクリックします。

重 要

- ファイアウォールが有効に設定されている場合、SVOM から監視を行うためには、ファイアウォール設定で「ファイルとプリンタの共有」の例外処理が有効に設定されている必要があります。

2.2.2 バインド順序の変更

複数枚の LAN カードを搭載するなどして、サーバに複数の IP アドレスが存在する場合、ServerView はネットワークのバインドで設定された順序に従って、IP アドレスを検索します。バインド順序は、SVOM をインストールした管理用のサーバまたはパソコンと通信を行うアダプタを最初に検索するよう、設定してください。
ネットワークのバインド順序を変更する手順は、次のとおりです。

POINT

- ServerView Windows エージェントが送信する SNMP トラップの送信元 IP アドレスには、ここで検索された IP アドレスが使用されます。
- サーバ監視に使用する IP アドレスが、複数のアドレス（仮想 LAN（VPN）など）を割り当てたアダプタを使用する場合、ServerView の動作はサポートされません。
  サーバ監視に使用する IP アドレスは、実 IP アドレスのみを割り当てたアダプタを使用してください。

■ Windows Server 2008 の場合

1. コントロールパネルを起動します。
2. 「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」の順にクリックします。
3. 左側のタスクより「ネットワーク接続の管理」をクリックします。
   「ネットワーク接続」画面が表示されます。
4. 「ネットワーク接続」画面で、「詳細設定」メニューの「詳細設定」をクリックします。
   「詳細設定」画面が表示されます。
5. 「アダプタとバインド」タブをクリックします。
6. 変更したい接続をクリックして、右にある矢印ボタンで順序を変更します。

■ Windows Server 2003 場合

1. コントロールパネルを起動します。
2. 「ネットワーク接続」をダブルクリックします。
   「ネットワーク接続」画面が表示されます。
3. 「ネットワーク接続」画面で、「詳細設定」メニューの「詳細設定」をクリックします。
   「詳細設定」画面が表示されます。

4 「アダプタとバインド」タブをクリックします。

5 変更したい接続をクリックして、右にある矢印ボタンで順序を変更します。

2.2.3 Service Pack の適用

必要に応じて、ServerView の各コンポーネントをインストールするすべてのサーバおよびパソコンに、Service Pack を適用してください。
Windows Server 2003 の場合は Service Pack 2 以降を推奨します。

2.3 インストール

Windows 監視対象サーバに、ServerView Windows エージェントをインストールします。

重要

- RAS 支援サービス V3.0 L10 をインストールする場合は、必ず RAS 支援サービスをインストールした後に、ServerView をインストールしてください。誤って RAS 支援サービスを後からインストールした場合は、ServerView Windows エージェントを再度インストールしてください。
- RAS 支援サービスについては、サーバに添付の『ソフトウェアガイド』をご覧ください。
- ServerView Windows エージェントは、上書きインストールできません。ServerView Windows エージェントをアップデートする場合は、ServerView Windows エージェント のアンインストール実施後、インストールを行ってください。
  アンインストールについては、「2.5 アンインストール」（→ P.30）をご覧ください。
- ターミナルサーバがインストールされているシステムでは、アプリケーションのインストール方法が通常とは異なります。ターミナルサーバ環境に ServerView Windows エージェントをインストールする場合は、下記手順 3 の操作を、それぞれ次の手順で行ってください。
  - ・Windows Server 2003 R2 ／ Windows Server 2003 の場合
    「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」→「プログラムの追加」→「CD またはフロッピー」から行ってください。
  - ・Windows Server 2008 の場合
    「コントロールパネル」→「ターミナルサーバーへのアプリケーションのインストール」から行ってください。
- Windows Server 2003 R2 上で ServerView を使用するときは、「プログラムの追加と削除」の「Windows コンポーネントの追加と削除」で、「管理とモニタツール」の「ハードウェアの管理」をインストールしないでください。「ハードウェアの管理」をインストールしている場合は、先にアンインストールしてください。
- 次のいずれかのソフトウェアがインストールされ、サービスが起動している場合、ServerView Windows エージェントのインストール開始前にこれらのサービスを一時停止する必要があります。

ソフトウェア	サービス
REMCS エージェント（Windows）	F5EP00RMService サービス、REMCS RmAosfB サービス
HRM/server（Windows）	F5EP70_HRM_ctrl サービス
RAS 支援サービス（Windows）	F5EP50 サービス

なお、ServerView Windows エージェントのインストール終了後はサービスの再開が必要です。

POINT

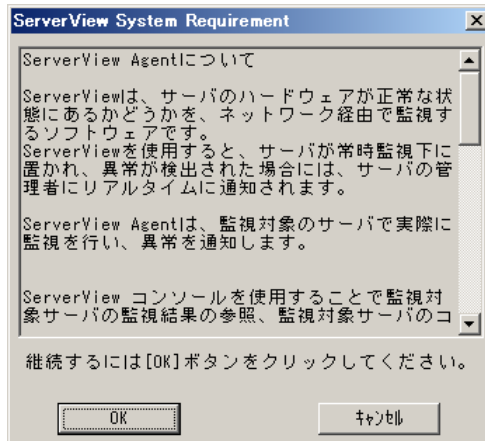
- ServerView Windows エージェントのインストール後、Windows の再起動は必要ありません。

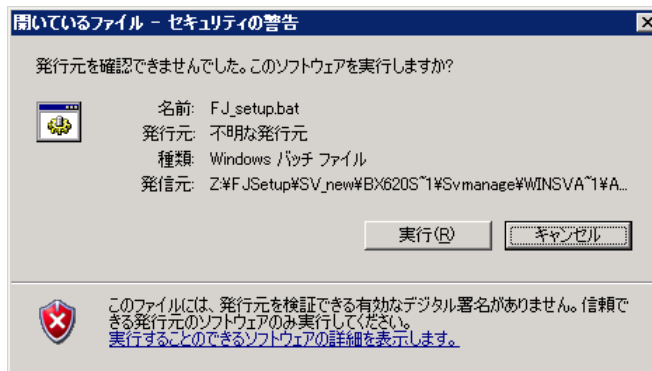
1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

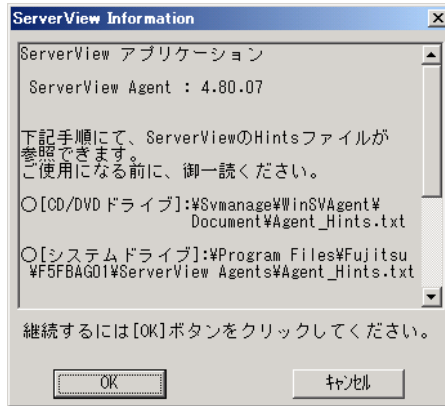
2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、次のインストーラを起動します。

［CD/DVD ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Svmanage¥WinSVAgent ¥Agents_setup.EXE

「ServerView System Requirement」画面が表示されます。

4 「OK」をクリックします。

次のセキュリティの警告画面が表示される場合があります。

5 「実行」をクリックします。

インストールが完了すると、「ServerView Information」画面が表示されます。

6 「OK」をクリックします。

インストール終了後、「2.4 インストール後の設定」（→ P.25）をご覧になり、ServerView Windows エージェント を運用するための設定を行ってください。

2.4 インストール後の設定

ServerView Windows エージェントをインストール後、正しく運用できるように設定を行います。

2.4.1 管理ユーザの設定

ServerView の管理権限を持つグループ（FUJITSU SVUSER）に属するユーザのみ、SVOM から監視対象サーバの ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）設定（ファン／温度／再起動設定など）やシャットダウンなどを行えます。
このとき、管理ユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。
FUJITSU SVUSER グループ、および属するユーザは自動的に作成されません。監視対象サーバごとに FUJITSU SVUSER グループを作成し、ServerView の管理者を FUJITSU SVUSER グループに追加してください。

POINT

- ServerView での管理ユーザとは、「FUJITSU SVUSER」グループに所属しているユーザです。
- Windows Server 2008 ／ Windows Server 2003 では、管理者ユーザアカウントにパスワードを設定しない場合、管理権限が与えられません。必ずパスワードを設定してください。
- FUJITSU SVUSER グループに、（グローバル）グループを追加しても、追加されたグループに含まれているユーザには管理権限は与えられません。FUJITSU SVUSER グループには、ユーザのみを追加してください。
- リモートサービスボード（PG-RSB101）を取り付けている場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SVUSER」グループに登録したユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。
- 管理ユーザを SVUSER 以外に設定した場合、プログラムの起動直後にログオンを行うと失敗する場合があります。この場合、いったん「キャンセル」をクリックしログオン画面を閉じます。その後、サーバのプロパティの「ログイン」タブでログオンの設定を再度行ってください。
- ServerView の管理ユーザは、Administrators グループに所属している必要があります。管理ユーザが Administrators グループに所属していない場合、ServerView から Shutdown や ASR の設定が行えなくなります。そのため、ServerView の管理ユーザを、Administrators グループに追加してください。

1. コントロールパネルを起動し、「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックします。
   「コンピュータの管理」画面が表示されます。
3. 左側のツリーで「ローカルユーザーとグループ」→「グループ」の順にクリックします。
4. 「操作」メニュー →「新しいグループ」の順にクリックします。

5 「グループ名」に「FUJITSU SVUSER」と入力し、「作成」をクリックします。

新しいグループが作成されます。
作成後、「閉じる」をクリックして「新しいグループ」画面を閉じます。

6 左側のツリーで「ローカルユーザーとグループ」→「ユーザー」の順にクリックします。

7 「操作」メニュー →「新しいユーザー」の順にクリックします。

8 必要な項目を入力し、「作成」をクリックします。

新しいユーザが作成されます。
作成後、「閉じる」をクリックして「新しいユーザー」画面を閉じます。

9 追加したユーザを選択し、「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。

10 「所属するグループ」タブをクリックし、「追加」をクリックします。

「グループの選択」画面が表示されます。

11 「詳細設定」をクリックします。

12 「今すぐ検索」をクリックします。

13 「Administrators」、「FUJITSU SVUSER」グループを選択し、「OK」をクリックします。

【Ctrl】キーを押しながら選択すると、同時に選択できます。
「グループ選択」画面に戻ります。

14 「OK」をクリックします。

ユーザの「プロパティ」画面に戻ります。
「所属するグループ」に「Administrators」、「FUJITSU SVUSER」グループが追加されていることを確認してください。

15 「OK」をクリックします。

「コンピュータの管理」画面を閉じて終了してください。

■ Server Core インストール環境の場合

Server Core のローカルコンソール環境では、Microsoft 管理コンソール（MMC）の GUI ベースの管理ツールは動作できません。次のコマンドを実行してグループおよび管理ユーザを設定します。

1 次のコマンドを実行し、「FUJITSU SVUSER」グループを作成します。

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER" /add
```

2 管理ユーザの作成およびパスワードの設定を行います。

```
>net user <ユーザ名> /add *
```

コマンドを実行するとパスワードの入力を求められます。

3 作成したユーザを「FUJITSU SVUSER」および「Administrators」グループに追加します。

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER" /add <ユーザ名>
>net localgroup "Administrators" /add <ユーザ名>
```

POINT

▶ 作成したグループおよび管理ユーザの情報の参照、削除は次のコマンドで実行できます。

・グループの参照

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER"
```

・管理ユーザの参照

```
>net user <ユーザ名>
```

・グループの削除

```
>net localgroup "FUJITSU SVUSER" /delete
```

・管理ユーザの削除

```
>net user <ユーザ名> /delete
```

2.4.2 SNMP 設定の変更

SNMP 設定の変更方法について説明します。
SNMP 設定に誤りがある場合、監視機能が正常に動作しません。
なお、「SNMP Service のプロパティ」の表示手順については、「2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」（→ P.14）をご覧ください。

■ SNMP コミュニティ名の変更

監視対象サーバ側で受け付けるコミュニティ名と、SVOM 側で監視対象サーバとの SNMP 通信に使用するコミュニティ名を同一に設定する必要があります。
コミュニティ名を変更する場合は、次の変更方法を行ってください。

重 要

- コミュニティ名は、通常「public」が設定されています。コミュニティ名を「public」のまま使用すると、第三者によって情報が取り出されたり、電源制御などの装置を操作されたりする危険性があります。任意のコミュニティ名に変更することを推奨します。なお、コミュニティ名／ SNMP パケット受け付けホストが正しく設定されていないと、認証エラー（"Unauthorized message received."）になります。コミュニティ名／ SNMP パケット受け付けホストを十分確認したうえで、設定してください。
- コミュニティ名には半角英数字を使用してください。特殊記号（" # & ~ | \ + * ? / : , など）および日本語は使用できません。

● 監視対象サーバでの変更方法

SNMP Service のプロパティ（「セキュリティ」タブ）を変更します。

コミュニティ名の変更

1. 「受け付けるコミュニティ名」で変更したいエントリを選択し、「編集」をクリックします。
2. 「コミュニティ名」を任意のコミュニティ名に変更し、「OK」をクリックします。

新規コミュニティ名の追加

1. 「受け付けるコミュニティ名」の「追加」をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します（「読みとり、書き込み」を推奨）。
3. 「コミュニティ名」に任意のコミュニティ名を入力し、「追加」をクリックします。

● **SVOM での変更方法**

すでに登録した監視対象サーバを変更する場合は、サーバ一覧の監視対象サーバを選択し右クリック→「サーバのプロパティ」→「ネットワーク／SNMP」タブの順にクリックして、コミュニティ名を変更します。
詳細または新しいサーバの追加方法については、『ServerView Operations Manager ユーザーズガイド』をご覧ください。

■ SNMP パケット受け付け設定の変更

監視対象サーバ側で、SVOM からの SNMP パケットを受け付ける設定を行う必要があります。
SNMP Service のプロパティ（「セキュリティ」タブ）を変更します。

● **すべてのサーバ、SVOM からの SNMP パケットを受け付ける場合**

「すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける」を選択してください。

● **任意のサーバ、SVOM のみからの SNMP パケットを受け付ける場合**

「これらのホストから SNMP パケットを受け付ける」を選択してください。
この場合、次の 3 つの設定値を必ず入力してください。

- SVOM のホスト名または IP アドレス
- 監視対象サーバのホスト名または IP アドレス
- 監視対象サーバのループバックアドレス（127.0.0.1 または localhost）

■ トラップ送信先の変更

SNMP Service のプロパティ（「トラップ」タブ）を変更します。
監視対象サーバ側では、トラップ送信先に SVOM のホスト名または IP アドレスを必ず入力してください。

2.4.3 インストール後のコンピュータ情報変更

ServerView Windows エージェントをインストールした監視対象サーバのコンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合、ServerView Windows エージェントに対して設定変更などの作業は必要ありません。
ただし、個別の環境用に SNMP サービスを設定している場合は、必要に応じて設定変更してください。

2.5 アンインストール

ServerView Windows エージェントのアンインストール方法について説明します。

重 要

- ServerView Windows エージェントをアンインストールする場合、すべての ServerView プログラムを終了させてから行ってください。ServerView Windows エージェントをアンインストールした後、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。また、アンインストールした後に ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。
- アンインストールを行うときに、途中で処理を中断したり、下記手順以外の操作を行ったりすると、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。
- サーバの BIOS に記憶された項目は、ServerView Windows エージェントをアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態にしてから、ServerView Windows エージェントをアンインストールしてください。
- アンインストール画面において文字化けが生じることがありますが、動作には影響はありません。
- アンインストール前に、次の内容を確認してください。
  - ・ソフトウェアウォッチドッグ、BOOT ウォッチドッグ監視、電源 ON/OFF 設定を「有効」に設定している場合は、「無効」に設定してください。
  - ・パフォーマンスマネージャでしきい値監視、レポート作成を適用している場合は、サーバへの適用を解除してください。
  - ・アンインストールを行うため、電源スケジュールや ASR 機能などの設定（SVOM を使用する項目）は削除されます。自動的に設定を引き継ぐ機能はありませんので、アンインストール前に設定内容を控えておいてください。
    アップデートインストール後、再度設定してください。

ServerView Windows エージェントをアンインストールするには、次の操作を行います。

■ Windows Server 2008 の場合

1. 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。
2. 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
3. コントロールパネルを起動し、「プログラム」→「プログラムと機能」の順にクリックします。
4. 「ServerView Agents」を選択し、「アンインストール」をクリックします。
   ServerView Windows エージェントがアンインストールされます。

● Server Core インストール環境の場合

1. PRIMERGY スタートアップディスクをセットします。
2. 次のファイルを実行します。
   ［CD/DVD ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Svmanage¥WinSVAgent¥Unagents.bat

■ Windows Server 2003 の場合

1. 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2. 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3. 「コントロールパネル」を起動し、「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

4. 「ServerView Agents」を選択し、「削除」をクリックします。
   ServerView Windows エージェントがアンインストールされます。

POINT

- ServerView Windows エージェントのアンインストール後、Windows の再起動は必要ありません。

第 3 章

ServerView Windows エージェントの使用方法

この章では、ServerView Windows エージェントの使用方法について説明しています。

3.1 ServerView Windows エージェントの使用方法

ServerView Windows エージェントの使用方法について説明します。
ServerView Windows エージェントは、「ServerView Server Control Service」と「SNMP Service の拡張エージェント」の 2 箇所にインストールされます。

3.1.1 ServerView Windows エージェントの起動方法

「ServerView Server Control Service」、「SNMP Service」を開始することにより、ServerView Windows エージェントが起動します。

POINT

- 「ServerView Server Control Service」、「SNMP Service」のデフォルト設定では、「スタートアップの種類」が「自動」に設定されていますので、本操作を行わなくても、サーバ起動時に自動的に起動されます。
  サーバ起動時に自動的に起動させたくない場合は、「スタートアップの種類」を「手動」に変更してください。

1. コントロールパネルを起動し、「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「サービス」アイコンをダブルクリックします。
3. サービス一覧で「ServerView Server Control Service」を選択します。
4. 「操作」メニュー →「開始」の順にクリックします。
   「ServerView Server Control Service」が開始されます。
5. サービス一覧で「SNMP Service」を選択します。
6. 「操作」メニュー →「開始」の順にクリックします。
   「SNMP Service」が開始され、ServerView Windows エージェントが起動します。

■ Server Core インストール環境の場合

Windows Server 2008 の Server Core インストール環境では、次のコマンドを実行することで、ServerView Windows エージェントを起動できます。

```
>sc start srvctrl
```

または、

```
>net start srvctrl
```

3.1.2 ServerView Windows エージェントの停止方法

「SNMP Service」、「ServerView Server Control Service」を停止することにより、ServerView Windows エージェントが停止します。

重要

- 「SNMP Service」を停止すると、拡張エージェントとしてインストールされている ServerView Windows エージェント以外のエージェントも停止します。

1 コントロールパネルを起動し、「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「サービス」アイコンをダブルクリックします。

3 サービス一覧で「SNMP Service」を選択します。

4 「操作」メニュー →「停止」の順にクリックすると、「SNMP Service」が停止します。

5 サービス一覧で「ServerView Server Control Service」を選択します。

6 「操作」メニュー →「停止」の順にクリックすると、「ServerView Server Control Service」が停止します。
ServerView Windows エージェントが停止します。

■ Server Core インストール環境の場合

Windows Server 2008 の Server Core インストール環境では、次のコマンドを実行することで、ServerView Windows エージェントを停止できます。

1 次のコマンドを実行し、「SNMP Service」を停止します。

```
>sc stop SNMP
```

または、

```
>net stop SNMP
```

2 次のコマンドを実行し、ServerView Windows エージェントを停止します。

```
>sc stop srvctrl
```

または、

```
>net stop srvctrl
```

3.1.3 ServerView Windows エージェントの再起動方法

ServerView Windows エージェントの再起動ツール「Restart ServerView Base Services」により再起動します。本再起動ツールは、ServerView Windows エージェントの停止、起動を連続して実行します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Service」の順にクリックします。

▶Server Core インストール環境の場合

次の操作を実行します。

1. ディレクトリを移動します。

```
>cd [システムドライブ]:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBAG01
¥ServerView Agents¥Diagnostics Tools
```

2. 次のコマンドを実行します。

```
>SCDoctor.exe /restart
```

「Restart ServerView Agents」画面が表示されます。

2 「Search for management hardware」を有効にして、「Restart」をクリックします。

3 再起動が完了すると「Restart Services completed successfully!」と表示されますので、「Exit」をクリックしてください。

重要

- 「管理ツール」の「サービス一覧」から「ServerView Server Control Service」を再起動する場合、「SNMP Service」も合わせて再起動する必要があります。
  「SNMP Service」の再起動を行わない場合、正常にサーバ監視ができないことがあります。

3.2 ServerView Windows エージェントの設定

ServerView Windows エージェントの Configuration Tools を使用すると、ServerView Windows エージェントの設定を退避、復元できます。
また、リモートサービスボード（リモートサービスコントローラ含む）搭載機、およびリモートマネジメントコントローラ搭載機では、それらの設定を退避、復元することができます。

POINT

- ServerView Windows エージェントのバージョンが異なる環境、またはリモートサービスボード、リモートマネジメントコントローラ、BMC の種類とバージョンが異なる環境で退避、復元を行うと、異常となる場合があります。退避したバージョンと同じバージョンへ復元してください。
- Configuration Tools は、Windows でのみ使用可能です。

重要

- 他の管理コンソールから該当サーバの設定を変更中に復元を行うと、設定内容に矛盾が生じてサーバが動作異常となる場合があります。必ず、他の管理コンソールから該当サーバへの設定変更を行っていないことを確認したうえで復元を行ってください。
- 各種設定の変更には、Configuration Tools を使用しないでください。他の PC などで管理コンソールや各 Web インターフェースを起動していると矛盾を起こし、サーバが動作異常となる場合があります。ただし、PG-RSB101 ～ 105 の初期 IP の設定、リモートマネジメントコントローラの IP の初期設定、および UPS の設定は除きます。
- Server Core がインストールされた環境では、Configuration Tools による退避、復元は制限のため行えません。

■ リモートサービスボードの IP、UPS 装置の設定

Windows サーバに ServerView Windows エージェントをインストールした場合、リモートサービスボードや UPS の設定ができます。設定を行う場合、次の手順で操作します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。

▶Server Core インストール環境の場合

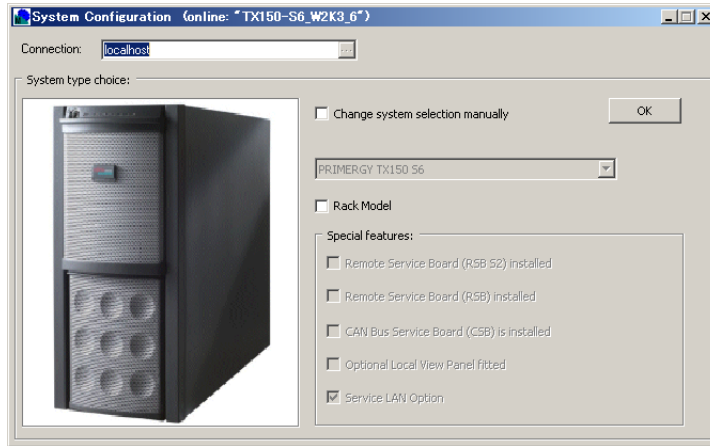
Server Core の場合は、次のコマンドを実行します。

1. ディレクトリを移動します。

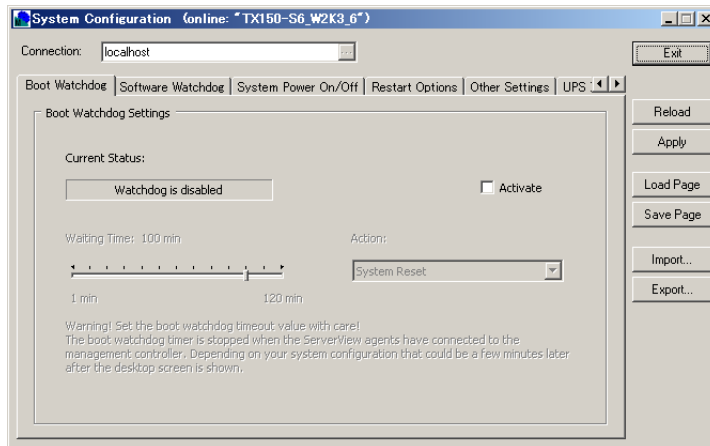
```
>cd ［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBAG01¥ServerView Agents
¥Configuration Tools
```

2. 次のコマンドを実行します。

```
>SCConfig.exe
```

「System Configuration」画面が表示されます。

2 「OK」をクリックします。

項目を設定する画面が表示されます。

「OK」が無効の場合は、「Change system selection manually」にチェックを付け、チェックボックス下のリストからサーバを選択して「OK」をクリックします。

3 **必要に応じて各タブをクリックし、項目を設定します。**

表示、設定可能なタブは、サーバの構成ごとに異なります。

▶ リモートマネジメントコントローラ／リモートサービスボード／コントローラ未搭載の場合

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
BMC IP Configuration	サーバ本体ファームウェアの個別 IP の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
System Power On/Off	サーバの自動電源投入／自動電源切断時間の設定です。
Other Settings	Fan test を実施する時間の設定です。
UPS Configuration	UPS 装置接続時の設定です。

▶ リモートマネジメントコントローラ（iRMC）搭載の場合

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
System Power On/Off	サーバの自動電源投入／自動電源切断時間の設定です。
Restart Options	サーバの再起動に関する設定です。
Other Settings	Fan test を実施する時間の設定です。
UPS Integration	UPS 装置接続時の設定です。
Asset Tag	サーバの資源管理に関する設定です。
iRMC Power Consumption Control	サーバの出力電力に関する設定です。
iRMC Advanced Features	リモートマネジメントコントローラの Remote Storage Server 設定です。
iRMC LAN Settings	リモートマネジメントコントローラの IP 設定です。
iRMC Networking Port	リモートマネジメントコントローラのポート設定です。
iRMC DNS Registration	リモートマネジメントコントローラの DNS 設定です。
iRMC DNS Server	リモートマネジメントコントローラの DNS サーバ設定です。
iRMC EMail Alerting	リモートマネジメントコントローラの SMTP サーバ設定です。
iRMC Email Format Settings	リモートマネジメントコントローラの E メールフォーマット設定です。
iRMC SNMP Alerting	リモートマネジメントコントローラの SNMP 設定です。
iRMC User Management ［注 1］	リモートマネジメントコントローラのユーザ設定です。
iRMC Directory Service	リモートマネジメントコントローラの Directory Service 設定です。

注 1 :「iRMC User Management」タブは、待避、復元対象にはなりません。

重要

- 設定変更は「iRMC LAN Settings」タブでのみ行い、他のタブの設定項目はリモートマネジメントコントローラの Web インターフェースで設定してください。
「iRMC LAN Settings」以外のタブでの設定変更は未サポートです。
- リモートマネジメントコントローラのライセンスキーを設定してある場合、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースにて「WinSCU」形式で退避したデータを復元すると「iRMC Advanced Features」の「License Key」項目でエラーが発生します。復元の際には「iRMC Advanced Features」の「License Key」項目に表示されるデータを手動で削除してください。設定されているライセンスキーには影響はありません。

▶ リモートサービスボード／コントローラ（PG-RSB101）接続の場合

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
System Power On/Off	サーバの自動電源投入／自動電源切断時間の設定です。
Alarm Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラのアラーム通知関連の設定です。
IP Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラの IP 関連の設定です。
Network Service Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラの HTTP ／ Telnet 関連の設定 です。
Remote User Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラのユーザアカウント関連の設定です。
SNMP Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラの SNMP 関連の設定です。
Serial Interface Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラのシリアル接続関連の設定です。
Storage Extension Configuration	拡張外部装置関連の設定です。変更の必要はありません。
Disk Redirection	リモートサービスボード／コントローラのディスクリダイレクション関連の設定です。本機能は未サポートです。
UPS Configuration	UPS 装置接続時の設定です。

▶ リモートサービスボード（PG-RSB102 ～ 105）接続の場合

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
UPS Configuration	UPS 装置接続時の設定です。
RSB S2 IP Configuration	リモートサービスボードの IP 設定です。
RSB S2 Network Services［注 1］	リモートサービスボードの各ネットワーク設定です。
RSB S2 User administration［注 1］	リモートサービスボードのユーザ設定です。
RSB S2 SNMP Configuration［注 1］	リモートサービスボードの SNMP 設定です。

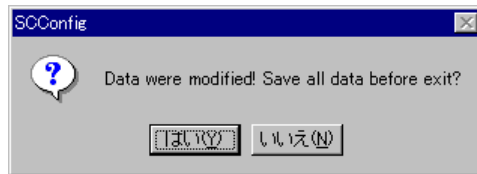
注 1：PG-RSB102 および PG-RSB103(L) が接続されている環境の一部では、これらの項目が非対応のため エラーとなる場合があります。これら以外の項目は設定されていますので、Configuration Tools は「Exit」をクリックして終了させてください。

POINT

- 各設定を保存する前であれば、「Reload」をクリックすると、項目が元の設定値に戻ります。
- サーバの前面に LCD のパネルが搭載されている機種では、「LocalView Panel Configuration」タブが表示されることがありますが、この設定は未サポートです。

4 「Apply」をクリックし、「Exit」をクリックします。

POINT

- 設定値を変更して「Apply」をクリックしていない場合や、「Import」による設定値の読み込みを行った場合は、設定内容を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。保存する場合は「はい」を、保存しない場合は「いいえ」をクリックします。

Configuration Tools が終了します。

■ 設定を退避する

設定内容を、ファイルとして保存します。

1 Configuration Tools を起動します。

「System Configuration」画面が表示されます。

2 「Export」をクリックします。

「Select export mode」画面が表示されます。

3 「退避モード」を選択して「OK」をクリックします。

「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

4 ファイル名、ファイルの保存先を設定し、「保存」をクリックします。

ファイルが保存されます。

5 「Exit」をクリックします。

Configuration Tools が終了します。

■ 設定内容の復元

設定内容を保存したファイルを読み込んで、各項目を設定します。

1 Configuration Tools を起動します。

「System Configuration」画面が表示されます。

2 「Import」をクリックします。

「ファイルを開く」画面が表示されます。

3 読み込む設定ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

読み込んだ設定ファイルの設定値で項目が設定されます。

4 「Apply」をクリックします。

設定内容を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

設定の復元を中止する場合は「いいえ」をクリックしてください。
Configuration Tools が終了します。

3.3 UPS 管理ソフトウェア連携

UPS 管理ソフトウェアと連携すると、UPS（無停電電源装置）の状態を ServerView から確認できます。

3.3.1 UPS 管理ソフトウェア連携の概要

■ 連携できる UPS 製品

- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア
  ・PowerChute® Business Edition v6.1.2J 以降（Windows 版）
- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用ネットワークマネジメントカード
- 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect）用管理ソフトウェア
  ・NetpowerView F V4.8 以降（Windows 版）

■ UPS 管理ソフトウェア連携で実現できる機能

実現できる機能は、次のとおり UPS 製品により異なります。

UPS 製品名	トラップ監視	アイコン変化	時間表示	ソフトウェア起動
Smart-UPS 用管理ソフトウェア	○	○	○	○
Smart-UPS 用ネットワークマネジメントカード	○	×	○	○
NetpowerProtect 用管理ソフトウェア	○	○	○	○

● トラップ監視

管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカードからのトラップイベントを、ServerView で監視することができます。

● アイコン変化

UPS 管理ソフトウェアから、停電などの商用電源異常が通知されると、SVOM のステータスアイコンが変化し、異常を知ることができます。

● 時間表示

- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカード
  バッテリ運用時、SVOM にバックアップ経過時間を表示します。
- 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェア
  バッテリ運用時、SVOM にバックアップ残り時間を表示します。

● ソフトウェア起動

- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア
  SVOM から Web ブラウザ（UPS 管理 Web インターフェース画面）を起動できます。詳細は、『ServerView Operations Manager ユーザーズガイド』をご覧ください。
- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用ネットワークマネジメントカード
  SVOM から Web ブラウザ（ネットワークマネジメントカード管理画面）を起動できます。詳細は、『ServerView Operations Manager ユーザーズガイド』をご覧ください。
- 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェア
  SVOM からは、UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）は起動できません。

POINT

▶ UPS 製品の SNMP 設定については、各製品の取扱説明書をご覧ください。

3.3.2 UPS 管理ソフトウェア連携の設定

UPS 管理ソフトウェアと ServerView の連携を行うためには、System Configuration を使用して ServerView エージェントに UPS 接続情報を設定する必要があります。
また、UPS 連携を行うサーバに UPS 管理ソフトウェアをインストールするか、または、ネットワークマネジメントカードを用意してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。

▶Server Core インストール環境の場合

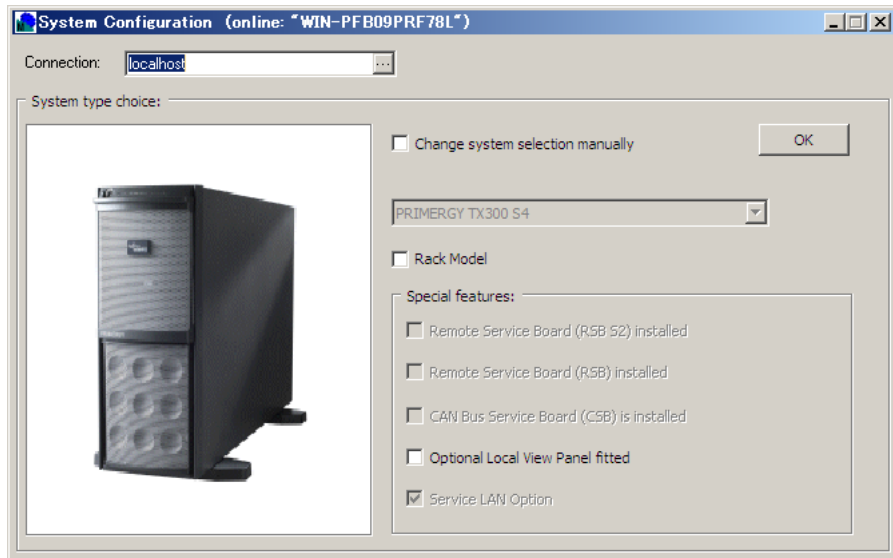
Server Core の場合は、次のコマンドを実行します。

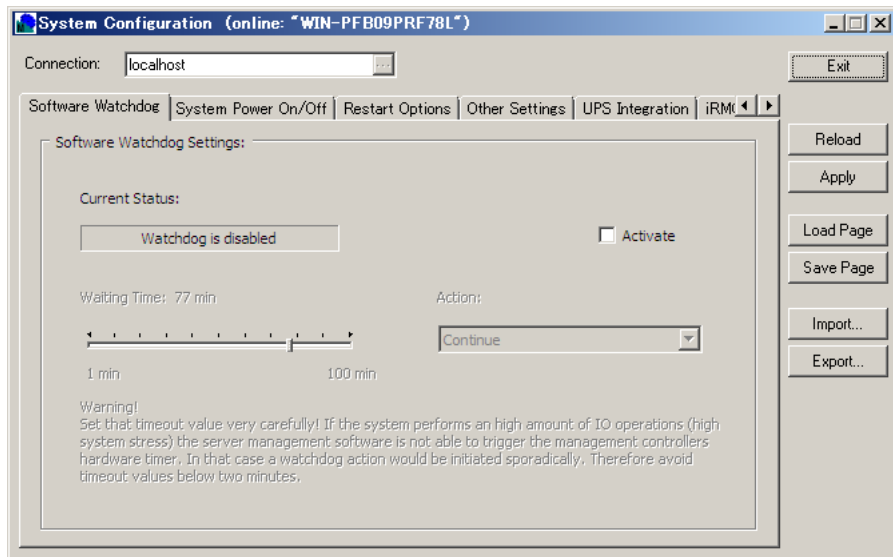
1. ディレクトリを移動します。

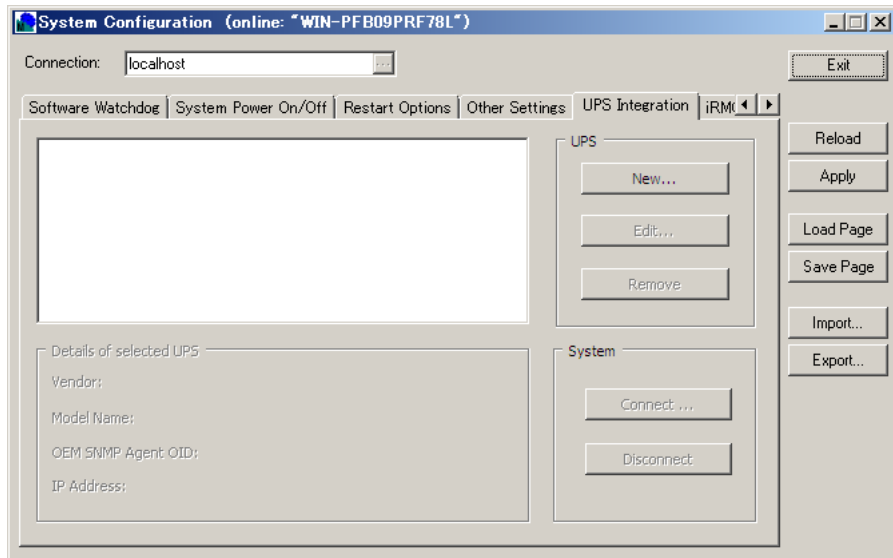
```
>cd ［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBAG01¥ServerView Agents
¥Configuration Tools
```

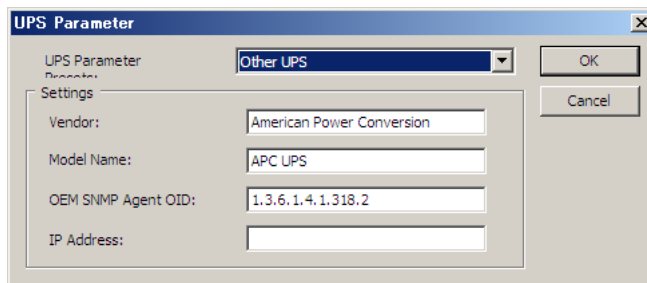
2. 次のコマンドを実行します。

```
>SCConfig.exe
```

「System Configuration」画面が表示されます。

2 「OK」をクリックします。

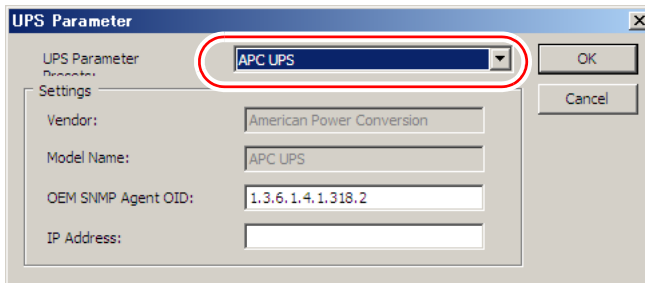
項目を設定する画面が表示されます。

3 「UPS Integration」タブをクリックします。

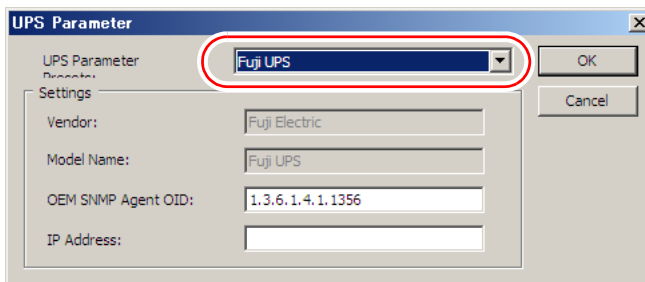
「UPS Integration」画面が表示されます。

4 「New」をクリックします。

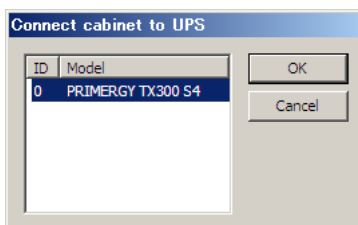
「UPS Parameter」画面が表示されます。

5 「UPS Parameter Presets」を選択し、「IP Address」を入力します。

なお、「UPS Parameter Presets」は、連携する UPS 製品により異なりますので、次のとおり設定してください。
また、「OEM SNMP Agent OID」の値は変更しないでください。

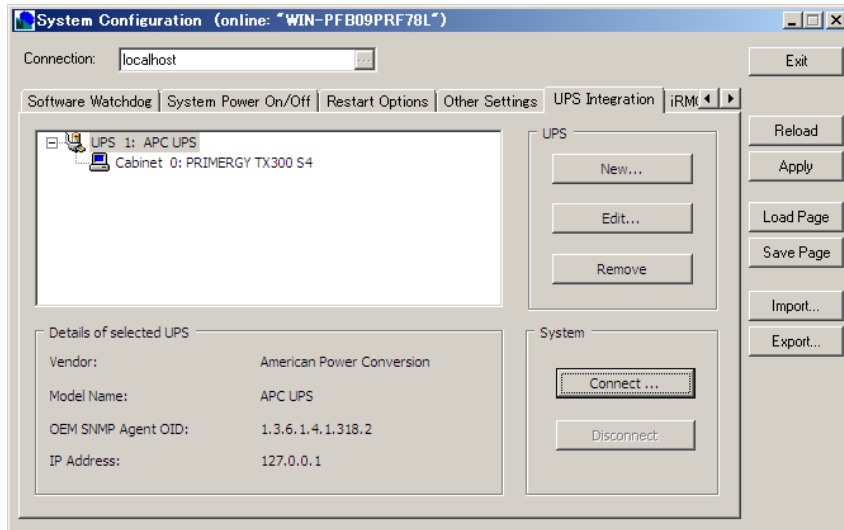
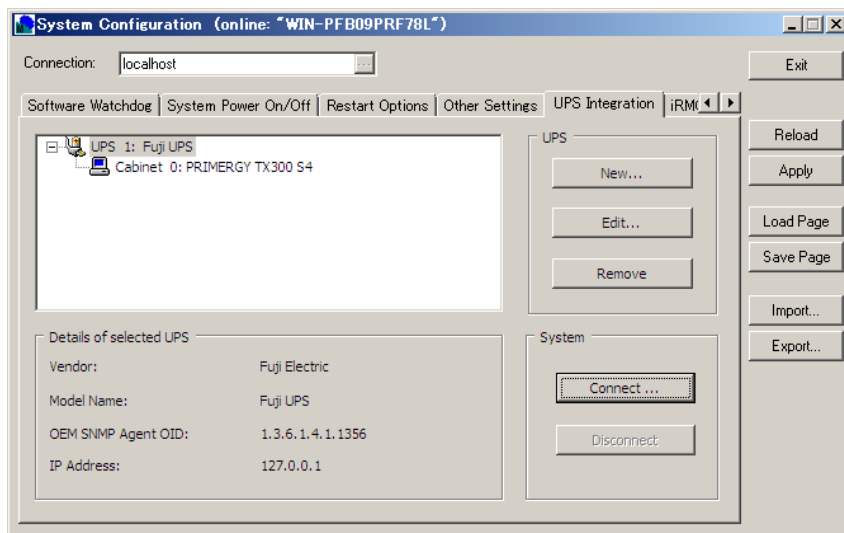
▶高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカードの場合

「UPS Parameter Presets」で「APC UPS」を選択します。
「IP Address」には、管理ソフトウェアの場合は、UPS を接続し、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力してください。
また、ネットワークマネジメントカードの場合は、ネットワークマネジメントカードの IP アドレスを入力してください。

▶高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェアの場合

「UPS Parameter Presets」で「Fuji UPS」を選択します。「IP Address」には、UPS を接続し、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力してください。

6 「OK」をクリックします。

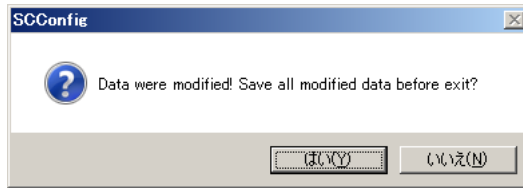
「Connect cabinet to UPS」画面が表示されます。

7 「OK」をクリックします。

次の画面が表示されます。

▶ 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカードの場合

▶ 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェアの場合

POINT

- UPS 接続情報を変更する場合は「Edit」、削除する場合は「Remove」をクリックしてください。
- Cabinet を UPS に接続する場合は「Connect」、切断する場合は「Disconnect」をクリックしてください。

8 「Exit」をクリックします。

設定を保存するかどうかを確認する画面が表示されます。

9 「はい」をクリックします。

UPS 接続情報が設定されます。

3.4 パフォーマンスマネージャのレポート出力

パフォーマンスマネージャのレポート設定により、レポートを出力できます。

● レポートデータの格納先

次のフォルダにレポートデータが格納されます。
［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBAG01¥ServerView Agents
¥ServerControl¥Reports

● レポートデータのファイル

1 つのレポートにつき、次の 3 つのファイルが作成されます。
xxx 部分はパフォーマンスマネージャで設定したレポート名と同じ名前となります。

- xxx.dat
- xxx.ind
- xxx.names

パフォーマンスマネージャで、レポートの設定を削除すると、これらのファイルも削除されます。

重 要

- パフォーマンスマネージャのレポートの定義で「エントリーの最大数」を設定しなかったり、短いポーリング間隔で長期間レポート出力を行ったりすると、ファイルが肥大化しディスク領域を圧迫する可能性があります。エントリー数を設定したり、レポート出力期間を一定にしたりするなど調整を行ってください。

付録

この章では、ServerView エージェント に関する技術情報について説明しています。

A　技術情報

ServerView Windows エージェント が起動するサービス、プロセスは次のとおりです。

■ サービス一覧

サービス	依存するサービス	依存されるサービス	機能
ServerView Server Control Service	Remote Procedure Call(RPC)	なし	ハード監視を行います。
ServerView Remote Connector	なし	なし	パフォーマンスマネージャやパワーモニタの監視に使用されます。

■ プロセス一覧

プロセス	機能
Srvctrl.exe	ハード監視を行います。
SVRemoteConnector.exe	パフォーマンスマネージャやパワーモニタの監視に使用されます。

索　引

あ

い

か

は

り

C

S

U